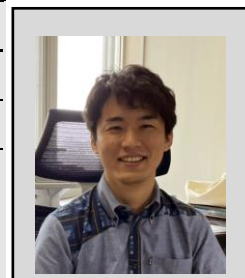


### 教員についての基本情報

教員名	塚原 健太 (TSUKAHARA Kenta)
担当教科と分野	教育課程・教育方法
研究分野	カリキュラム論、教育史、教師教育、音楽教育学
担当授業	教育課程、教育方法、教職体験Ⅱ、小学校教育フィールドワーク、教職実践演習、教材開発演習Ⅰ、低学年カリキュラムの理論と実践、小学校教育研究法Ⅰ・Ⅱ、卒業研究Ⅰ・Ⅱなど
授業についての一言	知っているようで知らない「カリキュラム」や「教育課程」とは何でしょうか。それは教師の仕事にどのように関わるのでしょうか。一緒に考えていきましょう。



### 研究の内容

カリキュラム開発における教師の能力形成に関する歴史的な研究に取り組んでいます。特に、子どもの個性や自発性を尊重した教育を求める動きが活発となった大正新教育における教師に注目しています。当時の教師たちが、欧米新教育の影響を受けた新しい教育の理論や実践に出会うことで、どのように自らの教育観・子ども観を変容させながら、子どもの事実に応じてカリキュラムを改革していたのか探究しています。

最近では、沖縄県の小学校・保育園・幼稚園・認定こども園の先生方とともに、幼小接続の視点から小学校低学年のカリキュラムや授業づくりにも取り組んでいます。

### 研究のキーワード

カリキュラム、教師の専門性、大正新教育、スタートカリキュラム、保幼小接続、教科教育

### これまでに研究室で取り組まれた卒業研究の内容

カリキュラムや教育方法に関わる幅広いテーマの中から、学生個人の興味や課題意識に即して研究テーマを設定しています。これまでの卒業研究のテーマには、以下のようなものがあります。

- ・問題基盤型学習の評価方法—社会情動的スキルを育む自己評価を中心に—
- ・小学校低学年における表現を促す環境構成—幼小接続の視点から—
- ・「子どものための哲学」に見る思考の育成—教師の役割を中心に—
- ・小学校における自己効力感を育むプロジェクト活動—育成可能性と手立ての検討—
- ・小学校における子ども理解を深めるドキュメンテーションの可能性—子ども理解の手段・方法の提案—

### 研究室の様子

本研究室では、①カリキュラムや教育方法について、それを支える理論や教師の信念にまで目を向けて探究すること、②自身の教育実践に関する課題意識を言語化し、それに即した研究対象や事例を見つけることを重視しています。卒業研究だけでは、各自の実践的課題を悉く解決することはできません。しかし、課題意識に通じるテーマに出会い、その前提を問うていくことで、自分事として研究と向き合うことができますし、教師としての信念や思想に奥行きをもたらすことができると考えるからです。

そのため、観察やインタビューなどを行う研究においても、様々な文献を読み解き、理論的な整理を行うことを重視しています。毎週たつぷり時間を取って実施しているゼミでは、主にそうした研究の成果を持ち寄り、多くの視点で検討し深めています。